臥雲氏 第14代松本市長に

令和２年３月15日

あの日あの時【29】

６人立候補 混戦制す

令和２年３月15日に投開票が行われた松本市長選には戦後最多の無所属新人６氏が立候補し、臥雲義尚氏＝当時（56）＝が初当選し第14代市長に就任した。16年ぶりに市長が交代する節目であり、それまでの市政の継承か刷新かを市民に問いかけた選挙でもあった。

市役所の建て替えや市立病院の移転新築計画、市立保育園の待機児童解消などを争点に、６人の候補がまちづくりについて活発に議論を交わした。臥雲氏は市役所の「スリム化分散化」をうたうなど、当時の施策の見直しと市政の転換を明確に訴えて支持を集めた。投開票から一夜明けた16日の記者会見では「継承すべきは継承し、変革すべきは大胆に変革する」として、市のかじ取り役を担う決意を語った。

コロナ下の活動 試行錯誤

選挙期間は新型コロナウイルスの感染が全国的に広がり始めた時期と重なり、各陣営が屋内集会の自粛など活動の大幅な制限を余儀なくされた。一方で、場所にとらわれないインターネット上での選挙活動があらためて注目を浴びた。各候補が会員制交流サイト（SNS）を活用し、映像や音声を取り入れるなど工夫を凝らしながら自身の訴えを市民に届けようと奮闘した。信州大学では学生有志が候補者１人ずつに政策や主張を取材しインターネット上で記事を公開するなど、若者や市民が中心となっての活動も目立った。投票率は48・38％と前回選を１・51ポイント下回り、過去３番目に低い結果となったが、松本の活力や多様性が示された意義の大きな選挙となった。

（田中祥子）

当選確実の知らせを受け、支援者と拳を合わせて喜ぶ臥雲氏（令和２年３月15日午後８時31分）

記者メモ

松本市役所新庁舎建設

老朽化や狭あい化、セキュリティー面などの課題を抜本的に解決するため、前市政は、平成28年に策定した「松本市総合計画（第10次基本計画）」に「市役所新庁舎建設計画の推進」を位置付け、新庁舎建設事業に着手した。臥雲市政ではそれをいったん白紙に戻し、分散型やデジタル化を根本に据えた新たな市役所の建設計画が進められている。臥雲市長は現地建て替え方針の白紙化と分散型庁舎の実現を目指している。

毎週月曜日掲載

選挙後も市民が市政評価

青山織人さん（77）＝松本市平田西１

市長選では臥雲陣営の選対本部長を務めました。市政の体制が変わる節目に、年代や性別、考え方の異なる６人もの候補が立ったのは市民として誇らしく、市にとっても大いに良いことだったと思います。選挙での投票は「白紙委任状」ではなく、選挙後も市民が市政を一つ一つ評価し、判断していく必要があります。そのためにも、市政には情報公開と説明責任を果たし、市民と議論するスタンスであり続けてほしいです。